

受賞作品

優秀賞

気づきの寺子屋

柴田 ゆき乃(千葉県在住、大学院生1年生)



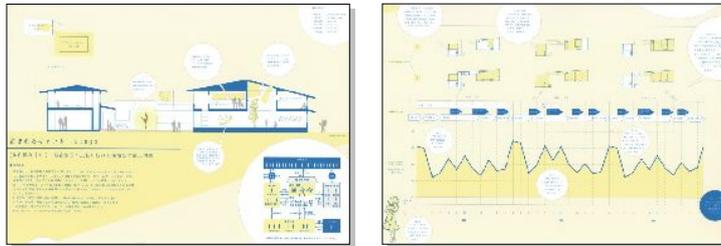
『気づきの寺子屋』と題した本作は、高山出身の大学院生らしく、地域特性をよく理解したものでかつ、ひとつひとつの部屋の設えが丁寧に描かれイメージしやすくバラエティに富んでいる。さまざまな人が集まり、あったかい空間が生まれそうな感がある。それぞれの部屋の用途を他の物件に当てはめることもでき汎用性の高い提案である。



優秀賞

泊まれるギャラリー atago

山の日展2019実行委員会(飛騨地域木工等異業種集団出品)



『泊まれるギャラリー atago』と題した本作は、飛騨地域に住む異業種集団が提案したもので、月ごとの観光客数の傾向から観光繁忙期はギャラリーと一般滞在、閑散期は作家滞在と工夫されている。メンバーは既に31年夏に別の空き店舗を活用して「山の日展 2019」の開催に向けて企画進行中で、本作はその常態使用としたもの。作家メンバーは、左官や猟師などいるとのことと一般的にイメージするようなギャラリーの規格外として展開しそうな予感をさせる提案である。



優秀賞

みんなカフェ

洞口 航(高山市在住、不動産会社社長)



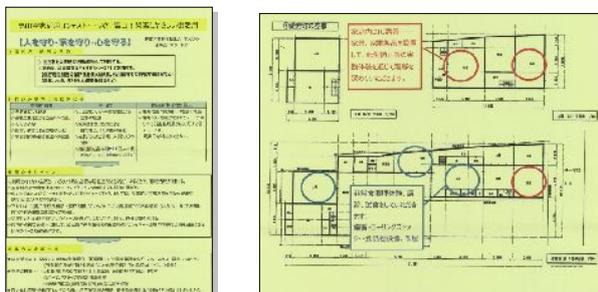
『みんなのカフェ民家のカフェ みんなカフェ』と題した本作は、あえておしゃれなカフェを狙わず、リアルな生活感をみせることで立地を最大限活かした現実的解決策として企画されている。建物の価値を壊さないように、できるだけ手をかけず、かつ、運営は地元のおばあちゃん、おじいちゃんができる範囲で手がけられるというもの。地元の方からは、この提案だと地域の抵抗感はなく逆に議論するうちに“こんなこともできるのでは”、“こんなことならやってもいいよ”と知らないうちに関わってしまいそうな提案である。



特別賞

いざ、高山！災害にやさしい街活用

NPO法人すえひろ(高山市在住、防災分野NPO代表)



プレゼンした10作品の中では唯一、防災をテーマとした作品であった。基本は、災害が発生した非常時において宿泊可能な避難施設とするものであるが、平時は災害講習や体験の場として活用する。今対象物件に限らず、どのような空家活用としても汎用可能な提案であり、空家活用を通じて本来目的である災害にやさしいまちの実現に向けた取り組みである。



高山空家活用コンテスト提案作品（受賞者を除く）

（申込順に記載）

No.	氏名	提案コンセプト
1	小原 慶祐	愛宕町の古民家活用方法に関する提案
2	牧野 大河	木の良さをまわりが生かす
3	レオイ株式会社	飛騨の文化体験館 ～被災時宿泊活用～
4	西尾 啓	愛宕町空家撮影スタジオ利用
5	門田 未紗子	高山市民で作る木育ハウス～日本の四季を世界へ届けよう～
6	中島 亮二	3000人のしゃもじ 吹屋町の家を食堂付き宿泊施設に転用する計画
7	伊藤 麻子	愛宕町の習字塾
8	伊藤 麻子	吹屋町 かばん職人の家
9	中島 賢一	高山町家の空家で“徹子の部屋”の番組収録
10	田村 嘉伸	まちかど文化伝承館 ～食文化の伝承と発信基地として～
11	岡田 一哉	高山愛宕陣屋（愛宕町）
12	岡田 一哉	高山愛宕陣屋（吹屋町）
13	白栗 勇	何も足さない 何も引かない
14	柴田 拓哉	古民家ロケジェニック
15	尾上 玄	飛騨高山に来たあしあとを刻もう！400万人で作るアートなおうち ホワイトハウス！？
16	石井 康太	高山市の空き家利用についての提案
参考提案 (審査対象外)	NTT 西日本高山営業支店 支店長 白川一公	飛騨の四季を満喫できる館（8k 映像で観光案内）
	NTT 西日本高山営業支店 支店長 白川一公	高山時代館
	NTT 西日本高山営業支店 支店長 白川一公	健康の館
	NTT 西日本高山営業支店 支店長 白川一公	気軽に利用できるシェアオフィス
	NTT 西日本高山営業支店 支店長 白川一公	グループホーム
	NTT 西日本高山営業支店 支店長 白川一公	古民家を楽しむカフェ